

「2003年 FloraGLO® Lutein に関する調査」の結果

調査デザイン

2003年6月13日～7月11日にかけて、東京、神奈川、埼玉、千葉の都三県において、地域内に居住する20歳以上の男女480人。内訳は、12～39歳の男女、および40～49歳の男女それぞれ60人、50歳以上の男女各120人となっている。

< 図 1 >

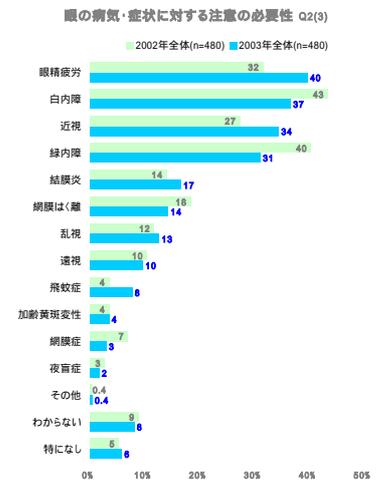
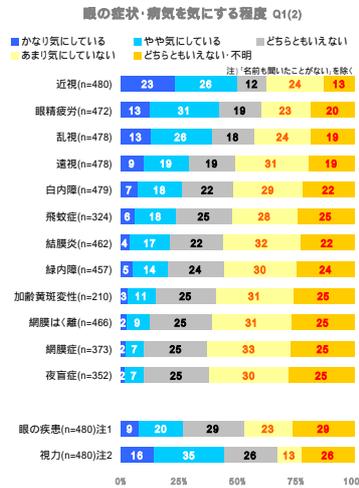
< 図 2 >

1. 眼の症状・病気について

12の眼の症状・病気についてどの程度気にするかを測定したところ、「近視」(49%)が最も高く「夜盲症」「網膜症」(9%)が最も低くなった。< 図 1 >

また、特に注意・配慮が必要と感じられる症状・病気では、「眼精疲労」(40%)、「白内障」(37%)、「近視」(34%)、「緑内障」(31%)となっている。

< 図 2 >



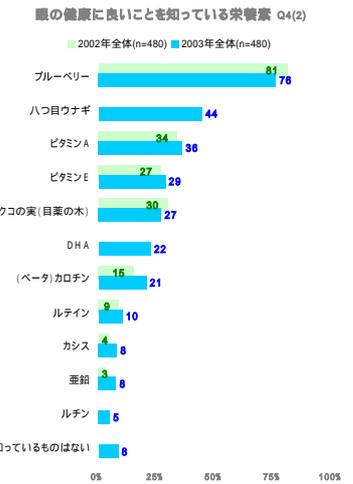
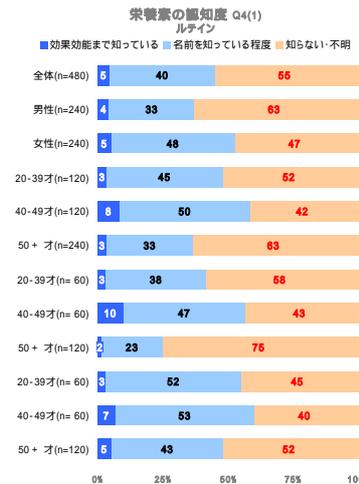
< 図 3 >

< 図 4 >

2. 栄養成分の認知度について

11種類の栄養素について尋ねたところ、「栄養素の効果効能まで知っている」人と「名前を知っている」人を合わせ認知度は、ビタミンA(99%)が最も高く、次いでビタミンE(98%)、ブルーベリー(98%)、カロチン(93%)。一方、ルテインを認知している人は全体の45%にのぼり、このうち男性(37%)より女性(53%)の方が高い。年代別では、男女とも40代(男性57%、女性60%)が最も高く、50代以上(男性25%、女性48%)がもっとも低い。< 図 3 >

また、眼の健康によい栄養素として11種類の成分について尋ねたところ、認知度のトップは2002年の調査と同じく「ブルーベリー」(76%)となった。次いで、「八つ目ウナギ」(44%)、ビタミンA(36%)、ビタミンE(29%)、なお、ルテインは10%で8番目。< 図 4 >



3. 栄養成分の摂取経験と満足度について

10種類の栄養素について摂取経験を尋ねた結果、最も摂取経験率が高いのは「ブルーベリー」(84%)。次いで、「ビタミンE」(64%)、「ビタミンA」(58%)となり、ルテインは最も低い9%となった。< 図 5 >

なお、ルテイン摂取経験者の性・年齢構成は、63%が女性で50代の女性が最も高い比率(42%)を占めている。< 図 6 > 一方、ルテインの摂取経験者のルテインに対する満足度は38%で、10種類の栄養素の中でトップとなっている。< 図 7 >

< 図 5 >

< 図 6 >

< 図 7 >

